

114
A1347

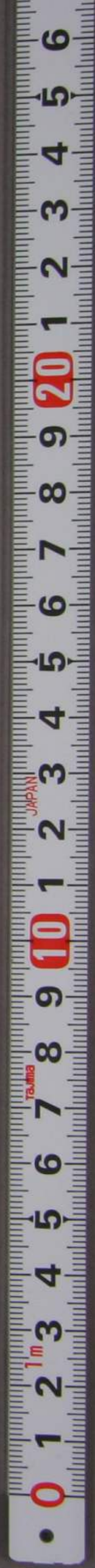
左院に建たかノ馬シ



切ニ惟ニ田ヲ蟹ニ野ヲ麟キ物産ヲ
殖スルル富國ノ基礎ニシテ今日ノ急務
ナリ既ニ北海ヲ拓ス六ニ
皇猷ヲ盛ニスルヤ 廟堂些着
服スル也也微臣一分ノ庸思ト魚モ亦
此ニ感アリ故ニ御馬才ヲ馳リ以テ
朝廷致遠ノ方一ニ酬ハント欲ス熟

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

2908



考スルニ既ニ北海ノ遠キモ之ヲ拓ス
 況ニヤ域内ヨリ現ニ縣内島原野井
 邑ノ一線早守山邑ニ接セル灘浜ノ
 地東西兩岸相迎ヘ中ニ一線ノ河ヲ
 帶ヒ東ニ蟹瀧スルニ便アリ而切成
 セハ元良田千二百丁ノ地ヲ得ヘ
 今日迄之ヲ割蟹セサルハ元来佐嘉
 島原兩藩ニ跨リ境界ヲ爭ヒ終ニ

舊田ノ支別ノ資金ノ多寡ニ見凡
 割蟹出テ大場所ナリ
 凡田千二百丁ノ田ト見テ十二ノ石蟹
 本高善方五丁ノ名ヲ拾石
 此頁末七丁ノ名ナリ
 免五ツ
 凡切ヲ成ス能ハス故ニ假令國家
 有益永久ノ美莫ト雖モ月費ヲ以テ

へル
 首ハ
 岩内
 ルヲ
 其
 又サ、

壘築スルノ資ナリ終ラニ手ヲ束ス
ル今此地ヲ容易ニ築キ而
朝庭ノ南ニ方ノ憂ヲ減シ一挙
兩得ノ策アリ方今ノ勢ヒ遊手素
餐ハ人ノ愧ル処而國家無救ノ
素餐者アリ貫屬是ナリ苟モ
貫屬タル者其ニテ可ナラレカ臣思ヘ
ラク之ヲ知ラザルニ非ラス奉還ノ意

ナキニ非ス而今日ニ至ル迄奉還
セサル亦其責アリ試ニ之ヲ論セン
耕サントスレハ田ナシ高セントスレハ
資ナシ朝ニ祿ヲ辭スレハ夕ニ飢ヲ
免カレス恰モ盲者ノ杖ヲ失ヒ赤子
ノ乳ヲ離レカ如ク豈憫歟ナラ
ズヤ是今日マテ奉還セザル所以ニレ
テ深ク咎ムヘカラス竊ニ思フ授産ノ

策ヲ設ケ農商ニ通セシムル
朝庭夙ニ確論アリ然レモ地方ニ在
者豈其難シ
朝庭後日措置
ニ托テ傍觀坐視意トセス可ナラン
乎況ニヤ旧藩々適宜ニ祿ヲ制スルノ
故ニ厚薄ヲ免カレザルヲヤ故ニ之ヲ
忽カセニスレハ治績ヲ奏スルニ難シ
必ス此素以養軍ノ為メニ良策ヲ建

カ食所ヲ得セシムル地方亦一ノ急
務也既ニ当縣旧島原貫屬ノ如キハ
最ニ薄祿ニシテ生計ニ窮テ人心洶々
日夜拱手仰頭痛恨スルノ外他ナシ
故ニ先般士族等ヨリ願ヒアラハ官林
ヲ兩縣ニシテ生活ヲ得セシムル事ヲ
亦蔵省ニ同ヒ許可ヲ得タリ然レモ
同所ハ土地ニ適セザル戸口ニシテ

僅四万石ノ地ニ十四万石ノ人口ナリ
故ニ墾闢スヘキ地ハ既ニ開キ尽シ
未タ拓キタル宿村ハ岩石突兀嶮
阻瘠地ニシテカヲ開墾ニ勉ムル活
路ヲ凌クノ目的ナシ是乃原ノこ
全情實ナリ先ニヤ管內許多ノ
貫屬ノ内貧婁無限モノ女十カラス
伏而希フ前件ノ墾田スヘキ地ヲ

長山原

縣内ノ貫屬ニ命シカヲ尽サシメ
ニ一ツテ而其貫ハ政府格外ノ優
恤ヲ垂レテ族率十年ノ祿ヲ集
シ初年ヨリ三年ニ至迄若三年
分ヲ給シ四年ニ至テ五年分ヲ給シ
之ヲ盡テシテ墾業セシメハ必歡喜
踊躍各妻子ヲ察シテ自カラ石ヲ
轉シ去テ擔ヒカラ尽クサシテハ

三ノ奇

他ノ田ヲ獲ニ比セハ其費ノ減スル
幾分ソヤ其切ノ連ナル幾許ソヤ
殊ニ島原城郭無救ノ石アリ之ヲ
築田ノ用ニ供セハ亦費ヲ消スル一層
而四年ニシテ切ヲ遊ケ管内勢屬
貧苦ノ者ヲ移住農ニ歸セシメ且
從來ノ居邸ヲ拓カハ亦數十町地
ヲ得ニ然ラハ則授産ノ方法確立

三國家ノ裨益少ナカラス而士衆ノ
大率ナリ若シ他日天下一般家
祿更正ノ期ニ臨ミ前ニ給スル処ノ
金過当ナル支アルモ既ニ其地蔵ク
ルヲ以年賦返納セシムル最易カ
何ノ思ハ集サシ臣薄識陋才ヲ
不顧敢テ威嚴ヲ侵ス仰キ冀クハ
一片ノ微衷ヲ憐レシ其粗漏ヲ求

長山縣
メスミテ採納セシテ其地ハ別ニ圖シテ以テ
臣カ幸ノミナラス縣内貫屬ノ幸
甚ナラシ其地形ハ別ニ圖シテ以テ
呈ス書以テ情ヲ罄ス能ハ願クハ
詳ラカニ口述セシ誠恐誠惶頓首謹言

佐賀縣平民

西一月八日

長崎縣大瀨松村存昌

左院出件

癸酉年六月